

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インド キラユ地域開発プログラム(IND-194000)



学校で勉強するシブラジ君(10歳)。机とイスがない教室で床に座って授業を受けます

チャイルドストーリー

科学者になってロケットを作る! 夢に向かって勉強しています

キラユ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすシブラジ君の両親は、日雇いで農場で働いています。父親は8年生、母親は12年生までしか教育を受けることができませんでした。2人は毎日仕事を得ることはできず、仕事があった日の収入も500ルピー(約8米ドル)しかありません。仕事を得られなかった日は、手元にある現金で何とか暮らしている状態です。そんなシブラジ君の両親は、息子には一生懸命勉強して、良い将来を手に入れてほしいと願い、シブラジ君をワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録しました。シブラジ君は支援によって、通学用カバン、制服、教科書、ノートなどの学用品を受け取り、ロケットを作る科学者になるという夢を抱いて熱心に勉強しています。様々なことに興味を持ち、たくさん質問をする、クラスの模範的な生徒として、担任の教師にも高

く評価されているシブラジ君。「大きくなったらぼくも村の誰かを助けてあげたいと思います」と笑顔で話してくれました。



将来の夢は「ロケットを作る科学者になること」

栄養プロジェクト

5歳以下の子どもたちの栄養改善に取り組んでいます



栄養不良の子ども（5歳以下）の割合が**52%**から**40%**に減少

子どもたちの栄養改善のためには、母親たちが必要な知識を持ち、適切なケアを行うことが重要です。支援地域では、ADPのトレーニングを受けた地域の女性たちが保健ボランティアとして活動し、同じ地域に住む5歳以下の子どもたちの健康状態を毎月モニタリングし、病気や栄養不良の子どもには地域の保健センターで適切なケアを受けるよう働きかけ

ています。また、栄養不良の子ども80人を対象に栄養改善プログラムを実施し、母親たちに栄養価の高い食事を作るトレーニングを行ったほか、産前産後の健診や母乳育児、手洗いの重要性などについての啓発を行いました。これまでの活動の結果、栄養不良の5歳以下の子どもの割合は52%（2012年）から40%（2014年）に減少しています。



子どもたちの栄養改善のため、鶏の提供を受け、卵が食べられるようになりました



女性を対象とした、産前産後の健診や母乳育児、栄養ある食事の重要性についての講習会の様子



地域の女性のインタビュー

Q.家族構成を教えてください。

夫と2人の子どもの4人家族です。農業を営んでいます。

Q.子どもの頃学校に通いましたか。

10年生まで通いましたが、その後家の事情で通えなくなりました。

Q.ADPのどのような活動に参加していますか。

栄養バランスの良い食生活や子育ての研修に参加し、多くを学びました。また、ADPからニワトリの提供を受け、子どもたちに卵を使った料理を食べさせてあげることができるようになりました。子どもたちのためには、奨学金など、勉強を継続し良い成績を修めることを奨励する様々なプログラムが提供されています。

Q.ADPの活動によって生活は変わりましたか？

活動が始まってから、村に活気が出てきたと思います。ADPの研修に参加して、子どもが健やかに成長できる環境がいかに大切かを学ぶことができました。

Q.今の夢を教えてください。

村全体がもっと発展して、すべての子どもたちに教育が行き届き、幸せで豊かな未来を生きることができるようになると良いと思います。



ADPの活動で子育てについて多くを学んだウーマさん（31歳）

生活向上プロジェクト

子どもたちが健やかに成長するためには、親の収入の安定が不可欠です

\$ 特に貧しい**200**世帯にヤギを支給

支援地域の中でも、特に貧しい世帯の収入向上を支援しています。2014年度は200世帯にヤギを支給し、行政機関の協力のもと飼育トレーニングを実施しました。ヤギは地域の厳しい自然環境でも育ちやすく、繁殖力が強いいため、増えたヤギを販売し収入を得ることができます。また、土地を所有していないため日雇い労働をしている10世帯が、1エーカー（約4,000平方メートル）の土地を借りられるように支援しました。借りた土地で米などの農作物を栽培し、得た収入から3年間かけて賃貸料を返済し、返済後はその土地を買い上げることもできます。さらに、仕事に就いていない若者64人を対象に、縫製や左官、家電製品の修理などの職業訓練を行いました。



生計向上のためヤギの支給を受けた家族

教育プロジェクト

地域の大人たちの意識に、少しずつ変化が起こっています

 **31**の「子どもクラブ」が活動

子どもたちの権利や意思が尊重されるためには、大人の子どもに対する意識が変革されることが必要です。ADPではこれまで、児童虐待や児童労働、早婚などについての啓発活動を継続して行っており、2014年度は支援地域内での児童虐待や早婚は報告されていません。また、31の「子どもクラブ」が活動し、子どもたち自身が教育の大切さや、リーダーシップのスキルなどについて学んでいます。さらに、教育環境の改善のため、地域内の小学校校舎の改修を行いました。



児童虐待防止に対する住民の意識を高めるため、地域内に設置された看板。不適切なスキンシップの具体例や、問題を発見した場合の連絡先などが記載されています

保健プロジェクト

子どもたちの健康状態と、衛生環境の改善を目指しています



衛生習慣の啓発活動に**850**世帯が参加

支援地域ではトイレなどの衛生設備が整備されておらず、また手洗いの習慣が根付いていないため、汚水が原因で下痢などの病気が多数発生しています。このような病気は幼い子どもたちの命を奪うことすらあります。このため、2014年度は手洗いなどの衛生習慣についての啓発活動を実施し、850世帯が参加しました。また2カ村で高架式のタンクからパイプラインを設置し、3カ村に浄水設備を設置したことにより、年間を通じて安全な飲料水を確保できるようになりました。さらに、54世帯にトイレを支給しました。住民の当事者意識を高めるため、パイプラインの設置作業には住民自身の参加を得るとともに、トイレを設置するための費用も一部負担してもらっています。



支援によって家にトイレができました



ADP マネージャー・インタビュー

Q. キラユADPが現在特に重点をおいていることは何ですか。

学齢期の子どもたちへの教育支援、5歳未満の子どもたちの栄養不良対策、生計向上のための職業訓練、母親に対する保健衛生についての啓発活動、貧しい世帯の自助グループへの参加促進に特に重点をおいています。政府や地域住民の組織と連携しながら活動しています。



キラユADPマネージャー アルル・ブラカシュ・S (51歳)

Q. 支援地域にはどのような課題がありますか。

大半の村人は農業、特に稲作に従事していますが自作農はほとんどいません。この地方は隣接するカルナタカ州から流れ下る川の水に頼っていますが、雨が十分でないと不作になるというリスクに常にさらされています。

Q. WVで働く原動力となっているものは何ですか。

貧しく虐げられた人々、特に子どもたちのために働くことが、神から与えられた使命だと思い、WVで21年間働いてきました。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



子どもの権利や正しい倫理観について学ぶ10代の子どもたち

会計報告

IND-194000

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

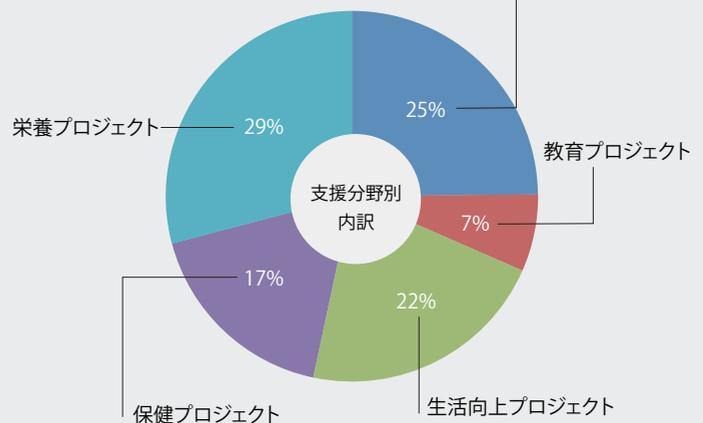
チャイルド・スポンサーシップ	33,779,551
当期支援額	33,779,551
前期繰越金	86,986
プログラム支援額合計	33,866,537

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,373,541
教育プロジェクト	2,271,966
生計向上プロジェクト	7,335,015
保健プロジェクト	5,918,549
栄養プロジェクト	9,810,276

プログラム支出額合計	33,709,347
次期繰越額	157,190

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : www.worldvision.jp
e-mail : dservice@worldvision.or.jp